

南北モデルにおける アウトソーシングの動学分析

森田忠士*

平成 20 年 1 月 23 日

概要

この論文は、南北モデルを用いて、北にある最終財企業が中間財を北か南のどちらから調達するのかを動学的に分析したものである。最終財企業が本国から中間財を調達する時、中間財の単価は高いが中間財を調達する際にかかる費用は安い。一方、最終財企業が外国から中間財を調達する時は、中間財の単価は安いが中間財を調達する際にかかる費用は高い。このとき経済が成長していくにつれて、最終財企業が本国から外国へと中間財の調達先を変えていく均衡経路が存在するということを述べていく。

*大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程 email:gge013mt@mail2.econ.osaka-u.ac.jp